

ごとう通信

第111号

平成22年3月1日

冬もまもなく終わります！と言っ

ても、ここから寒い日が来たりもしますから油断はできませんけど。それでもゴール間近という気がします。

今年の冬はオリンピックイヤーでしたが、日本はスケートの活躍ばかり目立ちました。僕たちが学生時代は「私をスキーに連れてって」という映画が流行ったり、ユーミンの音楽とともにスキー列車が出たりと、スキーブームでした。その後、バブル崩壊によりスキーリゾートは衰退。い



ろいろな企業スポーツもそうですが、景気に左右されないスポーツ選手への援助が望まれますね。オリ

ンピックのときだけメダルに過剰な期待をかけるのでは選手たちが可愛そうです。

いよいよ三月ですが、「三月」

と思うだけで気が楽になります。

特に冬に弱い僕としては。何だったら二月を二十日くらいにして三月を四十日くらいにしても良かったら気が楽になるのではと思うほどです。一年で辻褄が合うようにすれば良いんですから。「こういう「物は考えよう」ってありますよね。

個人的にはもう一つ変えた方が良いなと思うものがあります。人口の高齢化率は「六十五歳以上人口」で調査します。皆さんもよく聞く言葉だと思います。でも、現代

日本で六十五歳の方に「高齢」という言葉があまりにもしっくりきま



せん。いつそ八十歳くらいに引き上げてしまえば一瞬にして日本の高齢化率は下がるのに。「物は考えよう」ですね。

食の現実とは…

昨年から、介護現場での食に対する知識、技術を向上してもらおうと研究会を立ち上げました。その中で、ホームヘルパーさんやケアマネジャーさんたちに現状を聞く機会がありました。いろいろ調べてみると、やはり新宿の介護職の方はとても熱心です。全国レベルで考えてみても。在宅ケアを支える仲間として本当に心強いです。

そんな中で、現場の現状を聞いてみると、難しい問題があることもわ